

平成24年度教員派遣研修実施報告

教諭 高橋 洋

研修講座名・訪問校名・研修先住所等	研修日時
河合塾 教員研修プログラム 宮城県仙台市青葉区本町2の6の27	7月17日(火) 10:50~17:40
	計1日間、6時間50分
講師・担当者名	研修者氏名(教科名・校務分掌)
瓜生豊(英文法)、杉山俊一(英語表現)、 矢次隆之(英文読解)	高橋 洋(英語科・進路指導部副主任)
ねらい	受験指導における先進的な講師の授業を受け、難関大学に生徒を合格させるために、必要なことは何かを肌で感じ、それを日頃の授業等に生かしていくため。
研修内容状況等	10:50~12:30(100分) 英文法 (瓜生 豊) 13:20~15:00(100分) 英語表現 (杉山俊一) 15:10~16:50(100分) 英文読解 (矢次隆之) 3講座とも10分ずつ延長して100分の講義となった。自分が生徒に対して授業をすれば、おそらく100分でも足りない内容であるが、わかりやすく簡潔に解説してくれた。ただし、対象レベルは東北大希望者以上であるので、普段の授業ですぐに生かすことはできないであろうが、意識しながら、必要があれば押さえておく必要のあることばかりが提示された。
成果と課題	<p>それぞれの講座から印象的だったことを挙げておく。</p> <p>(英文法) 時制のとらえ方を細かく説明してくれた。Nextstageを作った方だけあって、東大希望者でも間違える現在時制の用法を再確認することができた。また、文法問題とはいえ、例文の中には重要な語彙も入っているので、文法・文構造の確認とともに語彙についても一緒に覚えさせるように授業を行っている。それが、英作文や英文読解にもつなげるように授業をしている。私も普段から文法や英作文の例文は、文法項目を覚えさせるだけではもったいないと感じ、語彙にも意識させて覚えさせるようにしてきたがそれが間違いではなかったと実感した。</p> <p>(英語表現) 東大希望者でも「先日」などの表現はなかなか出てこないなど、生の声を聞き少し安心した。生徒には、知らなかった表現を「フレーズブック」と称するノートに書かせているという。左側に日本語訳、右側に英語を書かせ、常に持ち歩かせているという。英作文とは知っている英語の表現を使って、問題文とほぼ同じ内容の英文を書くことであるから、知っている英語の表現を増やさなければならない。英文をただ羅列するのではなく、句を覚えさせるというのは理にかなっている。本校で使用している単語集「システム英単語」もフレーズを覚えさせる形式になっており、同じことをやらせていると感じた。ただ、自分の字で書いたフレーズブックは大きな力になるだろうと思う。</p> <p>(英文読解) 東大の英文読解の問題を分かりやすく解説してくれた。東大希望者の中でもっとも苦手だと感じるのは、パラグラフの並べ替えだということだが、基本的な文法の知識や語彙力が結局は必要なのだということが分かった。例えば、提案・要求・命令等を表す動詞のあとのthat節にはshouldを用いるか動詞の原形を用いるという規則があるが、これも、shouldを使うのは、事実でないことに対して用い、事実の場合はshouldも用いない、などこれまで生徒には曖昧にしか指導していなかったこともしっかりと指導している。もちろん東大希望者に対しては有効であるが、普段このような授業をすれば生徒は混乱してしまうであろう。英語の得意な生徒に対して質問を受けたら、やはりこのくらいの説明はしなければならないと感じた。また、英文法が英文読解では大切だということで、このshouldの例が出たのであるが、同じことを英文法の瓜生先生も英語表現の杉山先生も言っており、文法・作文・読解はすべてつながっているのだと感じた。実際に3人の講義は密接につながっており、文法で学んだ文法事項を使って英作文をして英文を読解していることが実感できた。</p> <p>(課題) 習熟度の大きく差のある本校の現状で、この3人の講師のように、英語が使いこなせるようになるような授業をどのようにしてやっていくかを、普段の授業のやり方を工夫して研究していきたいと思う。</p>